

平成24年守谷市議会第2回定例会会議録

平成24年9月

市政に関する一般質問

〔18番梅木伸治君登壇〕

18番（梅木伸治君） 通告順位15番，梅木伸治でございます。今回は，障害者雇用の拡大についてということで，1本だけに絞って質問させていただきます。

質問に入りたいと思いますが，その前に，けさのネットを見ますと，けさの新聞を見ますと言う方もいますけれども，私の場合ネットから1日が始まります。AKBのじゃんけん大会や尖閣諸島と，非常に幅広い，話題の多い，また相撲とか，スポーツの場面でも話題の多い時期でございます。

そんな中で，自民党の総裁選が行われているところでございます。私も2年間続けて党費を払いましたので，投票券が参りました。25日までに出さないとだめだということで，今，ツイッターでつぶやきながら，だれが人気一番あるのかなというところでは，林さんという方が多いですね。どういうふうな結果になるかわかりませんが，自分なりに検討させていただいて，総裁選投票したいと思います。

政治の世界，また別の世界でも，「はやり物はすたり物」ということがございます。その一瞬のはやりに乗って，また，その一瞬のはやりがなくなったために衰退していくと。やはり時代の流れとか，そういう環境，政治とか芸能関係ですか，そういったもので感じることもございます。

ちょっと話題は関係のないところにそれてしまいましたが，新聞の方では，茨城労働局の方で，これ県ですね。明日，明後日，障害者の雇用の相談ということがあるようでございます。ぜひとも一人でも多く，民間企業とのマッチングうまくいって，適材適所，先ほど又未議員の方からも話がございました。スポーツの世界ではございますが，やはり活躍の場，そういった場所の提供というものは行政もてこ入れしていかなきゃならない。

行政がやるもの，市民がやるもの，共同してやるものというもののすみ分ける中では，この障害者雇用というものに関しては，ハローワークが中心となってやっているわけでございますが，やはり守谷市としても手を添えて，また手を携えながらやっていくべき事案ではなからうかなと思います。

今回の障害者雇用について，来年4月1.8%から2%に引き上げる。これは15%ぶりの引き上げのようでございます。また，自治体におかれましては，2.1から2.3%に引き上げられるという状況でございます。

この辺について守谷市としての現在の状況，そしてその対応に関して，来年の募集ということでは考えが頭の中にまとまっているでしょうから，その辺をお聞かせ願いたいと思います。

議長（松丸修久君） 総務部長寺田功一君。

総務部長（寺田功一君） お答え申し上げます。

まず，守谷市の障害者の雇用の現状から申し上げたいと思います。守谷市役所におけることしの6月1日現在，6月1日で報告をしておりますので，その日現在の障害者の雇用状況でございますが，法定雇用障害者数の算定となります職員数でございますが，414.5人でございます。それに対して実際に雇用している障害者の方でございますが，8.5人でございます。実雇用率は2.05％で，法定雇用率の2.1％を下回っているところでございますが，障害者の雇用の促進に関する法律の算定上では法定雇用者数を達成しておりますので，現在のところ新たに障害者を雇用する必要性はありません。

しかし，先ほど議員から紹介がございましたように，来年の4月1日から，地方公共団体の場合は，現在2.1％の法定雇用率が2.3％に引き上げられます。そうしますと，現在の守谷市の職員数のまま推移していったという仮定では，法定雇用率が達成できないという状況になります。

来年度は正規職員の中で身体障害者の雇用ということを求めませんでしたので，現在のところは，臨時職員等の採用を12月の広報あたりに募集をしまして，それで4月1日から最低でも1名を増加しなければ雇用率を達成できませんので，行っていきたいと思っております。

議長（松丸修久君） 梅木伸治君。

18番（梅木伸治君） 平成22年7月から短時間労働者もその数の中に加えていいということになっている。そのもので，今回，短時間労働者を職員として入れるということだと思いますが，障害を持った方々，先ほどの適材適所というところもある中で，法律で定められた数字をクリアすればいい，またその足りない分は短時間労働者を使って数をそこで補ってあげばいいということじゃなくて，障害を持った方だからこそ，社会的な安定感をもたらしてあげるというのは大切なことなんじゃないかなと。民間企業であるならば，これは営利目的が中心でございますから，それはそれで別の角度になるかと思えますけれども，行政というのは，市の税金，みんなの税金を使ってやっているわけです。そういう税金の使い方として，そういう障害を持つ方たちに安定した職業を供給しましょうといえれば，納税者の皆さんは納得してもらえる，そんなふうに私は思います。

ある面，介護にしる何にしる，それこそ全員が福祉の気持ちで，給料いっぱいもらっているやつは少ない人たちを補うような福祉の心を持ってということもありますよ。その中で税金という皆さんから預かったものをそういう雇用の促進に使うということは，私は市民レベルで考えれば最善の施策であるんじゃないかなと思います。

そういう意味では，2.何％ということに限らず，法定雇用率にとらわれない，市が市内

企業の模範になるように、先ほど言ったように行政がやること、民間がやること、共同でやることさまざまありますが、やはり市が、行政が、そこはイニシアチブをとって、私たちのまちはこれだけやっているんだよというふうなものをもっと前面に出てくるといいんじゃないかなと、まさにそこには福祉の心が入るんじゃないかなと思います。

私、市議会議員になって、皆さんとの約束は、弱者を助けるんだと。そして、不満をなくし、不安をなくすことが議員としての一つの大きな仕事であると思っています。そんな中では、こういう社会的に働く場というところでは厳しい環境の人たちを、ぜひとも市としては、一人でも多く仕事をしていただいて、活躍の場を提供していただければなど、そんなふうに思うところでございます。

今回、この障害に関してちょっと勉強させてもらったところでは、国による障害者就労施設からの物品等の調達の推進というのもございます。障害を持った方々が製造業でつくったものを市としてもなるべく使いましょう。グリーン購入みたいなところもあるかと思えます。そういうところでの動きが法律の中でもあるようですから、今回は就労に関してでございますが、その勉強させてもらったその延長線上にそういう法律もあったということを紹介させていただいて、ぜひとも守谷市としても、そういう角度でも協力を願いたいと思うところでございます。

そして最後に、議会事務局の方でちょっと調査をしていただきました。守谷市内に住む人口に対する障害者手帳を持つ方の数、守谷市の場合には3.03、取手は3.9、つくばみらい市3.84、常総市は4.33、身体障害者とか精神とかいろいろあるかと思えますが、人口に対する障害者の数、その分母が非常に少ない。そんな中でも2.1%クリアしているんだという努力は今回認めさせていただきますし、今後も、今までの形に敬意を払いながら、今後の努力にますます傾注してほしいということを望みまして、私の一般質問を終了したいと思います。ありがとうございました。

議長（松丸修久君） これで梅木伸治君の一般質問を終わります。